



これからも安心・安全な水を届けるために

令和7年10月に大洲市水道事業経営審議会に諮問していた「大洲市水道事業経営戦略」および「大洲市工業用水道事業経営戦略」について、1月23日(金)に答申を受けました。

これは、令和3年3月に策定した経営戦略について、策定から5年が経過したため見直しを行うものです。大洲市では、市民のみなさんに安心・安全な水をお届けできるよう、今後も計画的に事業を進めていきます。



いざという時に備える救命講習

1月24日(土)、大洲市防災センターで防災士スキルアップ研修を行いました。地域の防災力向上を目的に市内の防災士が参加。消防署員と女性消防団員の指導のもと、心肺蘇生法やAEDの使用法、救護・搬送訓練、ロープの結び方などを実技を交えて学びました。万が一の場面でも落ち着いて行動できるよう、救命の重要性と適切な対応方法について理解を深めました。研修を通して、地域で命を守るための備えの大切さを改めて確認しました。



私たちの健康は私たちの手で 健康食フェア

食を通じて地域の健康づくり活動を進めている大洲市食生活改善推進協議会による「令和7年度 健康食フェア」が2月5日(木)、総合福祉センターで開催されました。

今年のテーマは「100歳になってもいきいきと」。市内の各支部が研修などで学んだ知識と大洲産食材を詰め込んだ料理を持ち寄りしました。約180人の参加者は、アイデアが散りばめられたレシピを確認しながら和気あいあいと食事を楽しんでいました。



農村地域の保全活動が表彰されました

棚田オーナー制度などを行っている椋谷地域資源保全会が、中国四国農政局長表彰を受けました。この表彰は、地域が共同で行う農用地などの地域資源の保全活動を支援する「多面的機能支払事業」のうち特に優秀な取り組みに対して表彰されるものです。

2月6日(金)に市役所で表彰を受けた代表の城本誠一せいいちさんは「地域の皆さんの協力も得ながら地域全体を盛り上げていきたい」と話していました。

読書の楽しさ広げる「うちどく・ともどく」

家庭や友人と本を読み、感想を語り合うことで、読書の楽しさやコミュニケーションを深める「うちどく・ともどく」。その取り組みの一環として、おすすめの本3冊を選び感想を応募する「うちどく・ともどくチャレンジ！コンテスト」の表彰式が、2月14日(土)、大洲市立図書館で行われました。最優秀賞・優秀賞に選ばれた受賞者に賞状が授与され、最優秀者は、ランキング1位に選んだ本への思いを堂々と発表。会場は温かな拍手に包まれました。



起業に挑んだ8カ月 高校生が成果発表

高校生起業家を育成する「大洲市高校生チャレンジプログラム」の成果発表会を2月15日(日)、大洲イノベーションセンターで開催しました。参加した高校生18人は、昨年7月の開校以降、講義で知識を深めるとともに個人での中間発表を経て、その後5グループに編成。実証実験を行うなど企画を磨き上げ、この日、地域資源を生かした商品やサービスの成果を発表しました。二宮市長は「この活動を通して、地域の課題にそれぞれの視点で向き合い考えてくれた。今後は、大洲、愛媛、そして日本を元気にする若者へと成長してほしい」と期待を寄せました。本プログラムは来年度も実施する予定です。



祇園まつりが開催されました

旧暦の正月にあたる2月17日(火)から19日(木)までの3日間、八多喜地区の祇園神社で「祇園まつり」が開催されました。一年の無病息災を願うこのまつりでは、期間中、地元商工会などによる縁起物やうどんの販売が行われ、会場は多くの人でにぎわいました。

最終日の19日には藤縄神楽が奉納され、餅まきも実施。見学に訪れた地元の児童や園児は、神楽を実際に体験しながら、地域に受け継がれる文化への理解を深めました。



きらめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急



災害時に民間ヘリを活用 初の訓練

南海トラフ巨大地震に備え、民間ヘリコプターを活用した防災訓練を、2月16日(月)に防災センター(若宮)を拠点に実施しました。防災士会や自主防災組織、消防団、消防署など約30人が参加。高知沖で震度7の地震が発生し集落が孤立したことを想定し、森林公園(北只)を孤立集落に見立て、水や食料の輸送や負傷した住民をヘリコプターで搬送しました。

民間ヘリは2024年の能登半島地震でも活用されており、石川県へ支援に入った(一財)国際災害対策支援機構の松尾悦子^{えつこ}代表理事は講演で、「公的ヘリに比べ小型のため大量輸送はできないが、現地に支援に入ることで被災者とのコミュニケーションが生まれ、安心感や心のゆとりにつながる。公的支援の隙間を埋めることができる」と話しました。

翌17日(火)には、平時での観光利用を見据えた実証実験を同森林公園で実施。地元住民や観光関係者など約25人が参加し、ヘリコプターの誘導や搭乗体験を通して、知識の向上と活用への理解を深めました。今後、観光事業への活用に向けた検討が進められます。



楽しく健康づくり 広がる交流の輪

高齢者の健康増進を目的とした「高齢者レクリエーション大会」を2月20日(金)、大洲市総合体育館で開催しました。大会は平成29年度まで「高齢者スポーツ大会」として行っていましたが、平成30年豪雨や新型コロナウイルス感染症の影響で中断しており、8年ぶりの開催となりました。当日は旧大洲市内12地区から60歳以上の高齢者約350人が参加し、仲間と声を掛け合いながら体を動かし交流を深めました。

水道行政に貢献 国土交通大臣表彰を受賞

水道関係功労者国土交通大臣表彰を受賞した(有)オクダ設備の奥田稔代表取締役が、2月24日(火)に市役所を訪れ、二宮市長に受賞を報告しました。本表彰は、水道の普及・発展や技術の改善などに顕著な功績があった個人・団体に贈られるものです。奥田さんは平成30年から大洲市管工事協同組合の理事長を務めるなど、長年にわたり本市の水道行政に大きく貢献してきました。

二宮市長は「水道は住民生活に欠かせない重要なインフラ。今後ご協力をお願いしたい」と述べ、受賞をたたえました。

